

競争社会へ飛び出す諸君へ

学長 下谷 政弘

今日ここに卒業の日を迎えられた皆さん、ご卒業おめでとうございます。学業を終えられ、たくましく成長し巣立っていく皆さんの姿を見るのは、本学にとってもっとも誇らしく、またうれしく思う瞬間です。教職員一同、心から皆さんの新たな門出をお祝い申し上げます。

この冬は、雪こそ少なかったもののやはり寒さの厳しい冬でした。しかし、季節というのは正直なもので、この福井の地にも忘れず暖かい春がめぐってきました。この佳き日に際しまして、西川一誠福井県知事、吉田伊三郎福井県議会議長をはじめ、本学にゆかりの深いご来賓の方々をお迎えし、ここに平成二四年度の学位授与式を挙行できますことは、本学にとってこの上ない大きな喜びであります。ご家族やご親族の皆様方におかれましても、卒業生諸君の晴れがましい姿をご覧になって、さぞかし深い感慨の念に包まれておられることと存じます。お慶び申し上げます。

本日晴れて卒業するのは、経済学部202名、生物資源学部49名、海洋生物資源学部45名、看護福祉学部82名の計378名の諸君です。また、大学院の前期課程、修士課程を修了するのは35名、博士後期課程修了者は4名、論文博士号の取得者1名です。以上の多くの諸君の中には、学部で2名の、大学院で8名の留学生の諸君も含まれています。さらには、副専攻の修了者、そしてオナーズプログラム修了者の諸君にも、日頃の研鑽の努力を讃えたいと思います。とりわけ今年は、4年前にスタートした小浜の海洋生物資源学部から初めての卒業生を送り出すことができました。また、昨年に本学は創立 20 周年という節目を迎えましたが、今回で学部卒業生の累計は 6,037 名と6千人を超えました。

卒業生の皆さん、これから未来に向けて飛び立とうとしている皆さんを前にして、私は大きな感動と喜びの気持ちを隠すことができません。これから新たに社会生活を始めることになる皆さんは、大いなる希望や期待を胸に抱いていることでしょう。半面、一抹の不安の気持ちもあるに違いありません。中には進路が未定で、新生活の設計図を描くのに今も迷っている諸君がおられるでしょう。しかし、今日は新たな生活へのスタートの日です。新しいスタートに不安や戸惑いはつきものです。リスクや不安のないチャレンジなどはありません。ぜひとも、強い気持ちをもって新生活に立ち向かって頂きたいと思います。近年、日本社会は本格的なグローバル時代に直面し新たな方向付けを迫られています。皆さんには、ぜひとも目線をアジアにそして世界にまで高めて、大いに活躍されんことを望んでやみません。

皆さん、世の中の変化は激しく厳しいものです。グローバル時代のなかで企業は改革に余念がありません。皆さんを待ち受ける経済社会の現実には厳しく、予想以上の試練にさらされるでしょう。しかし、どの職場でも、皆さんの若い力に大きな期待を掛けていることに間違いありません。皆さんは、新人として、まだ周囲が少し大目に見てくれる間に積極的に仕事を覚え、失敗を恐れることなく現実の中に飛び込んで頂きたい。また、今日の日を機会に、改めて志を立て、目標を立て、

自ら思いを新たにして臨むチャンスにして頂きたい。自分自身に挑戦したり自らを変えていくことは、若い内にこそできることなのです。一生懸命やった結果失敗した若者を、すぐにつぶしてしまうほどに社会の度量は狭くはありません。皆さんも若者らしく率直に語り、果敢に行動し、これまで学んだ技術や知識、友人をはじめとする人間関係のありようを思い起こし、それらを十分に生かしながら、何事にも積極的に取り組んでいってほしいと思います。

皆さん、今日の世の中は「競争社会」と呼ばれます。実に、人々の間で、企業間において、また技術発展などでも、それらをもっとも規律づけ動機づけているのは競争というシステムです。競争というシステムこそが、よきにつけ悪しきにつけ、今日人類がこれまでに獲得した最善の叡智なのです。かつて、この「競争」という新たな用語について、福沢諭吉が残した有名な逸話があります。まだ江戸の末期のころでした。諭吉が勘定方の役人に、英書中の competition を「競争」と日本語に訳して説明しました。ところが、「イヤここに争いという字がある、ドウモこれが穏やかでない……これではドウモ老中方へご覧に入れることができない」、といわれる。そこで諭吉は、「争いという字がおさしつかえならば、ほかに翻訳のいたしようもないから、まるでこれは削りましょう」と、「競争」の二字を真っ黒に塗りつぶしたといえます(『福翁自伝』)。

なるほど、競争や争いだけでは人の世はうまくいきません。競争していく過程の中で、それは、物事の本質を見抜く洞察力や問題解決のための実行力になると同時に、また、人への優しさや思いやり、勇気や信念に裏打ちされたものへと次第に高まっていくものでなければなりません。人は、諦めさえしなければ、失敗しながら、思い直しながら成長を続けるものであり、より大きくなっていくものと思います。皆さんには、周囲の風潮などに惑わされることなく、自らの信念を自分の言葉で正確に相手に伝えることができるようになってほしい。よりよく物事を達成し、人と共に生きる知恵を身につけていってほしい、そう願ってやみません。

今日は晴れの卒業式です。「卒業」というのは、いうまでもなく学業を終えるという意味です。もちろん、今後も新たな気持ちをもって不断に勉学を続けていくことが重要であることはいうまでもありません。英語では、卒業式や学位授与式のことを commencement といいます。この commence とは「開始する、新たに始める」といった意味の言葉です。つまり、今日の卒業式は、本学での学業を終える日でもあります。それとともに、皆さんの新たな生活のスタートを祝福すべき日でもあるわけです。

皆さんはこれから「競争社会」へと飛び出していきます。どうぞ皆さんには、強い気持ちをもって自らの新しい生活を切り拓いていってほしいと思います。皆さんの在学中には、あの「3・11」が起きました。そのことは今もって忘れることができませんが、あの悲惨な経験から得られた教訓と戒めは、そしてまた、何が人生にとって一番大切なのかを思い悩み考えさせられた日々のことは、必ずやこれからの皆さんの新生活にとって貴重なものになることと信じています。卒業生の皆さん、皆さんには福井の地で過ごした青春時代の思い出を大切にしてください。そして、靴音も高く学び舎を後にしてください。ご活躍を祈っています。

皆さんへの期待の気持ちをこめまして、以上、本日の式辞といたします。